

# 蓮池 (はすいけ)

## 位置図



## 諸元

貯水量	480 千m <sup>3</sup>
満水面積	13.8 ha
受益面積	145.0 ha
堤高	9.0 m
堤長	574.0 m

蓮池は三木町の中西部に位置するため池です。長尾街道バイパスを東に向かい、三木町に入ったところで右側（南側）を見上げると蓮池の堤防が見えます。堤防の上からは高松平野が一望でき、また夕暮れには犬を連れて散歩をする人がよく行き来している姿がよく見られます。

名前の由来は蓮が自生していたため、蓮池と名がついたと言われています。蓮の花は外見の美しさのみならず、インドの国花にも指定されていて、仏教とのつながりが強い花です。そのためか堤防上にはミニ四国霊場八十八箇所の仏像が並んでおり、信仰深い人が参拝する姿も見られます。

蓮池の水は上流にある三ツ子石池から2本の水路を通って入ってきます。それはもともと蓮池とこもいけ孤池の2つの池に分かれていたからです。承応元年(1652年)に当時の高松藩によって統合されて、今日の形となりました。その証拠に水が干上がったときには、もとの蓮池の堤の跡を見ることができます。

明治以降、何度も改修工事が行われている蓮池ですが、昭和62年(1987年)の台風19号では吉田川から池の南東の口に激しく流れ込み、西北部の堤を大きく損傷しました。決壊せずに持ちこたえたのは堤上の仏像たちのおかげだと言われています。



蓮池



堤体と仏像